

法務省の「入管難民法」の 国会への再提出に抗議する！

「入管難民法」は法務省が2021年に国会提出したが、スリランカ人のウイシュマさんが収容中に死亡した問題で入管局の対応に批判が集中し廃案となり、昨年の通常国会への提出を見送っていた。

法務省は、廃案となった改正案をほぼ維持した法案を今国会に提出しようとしている。難民認定申請中は送還されない現行ルールに回数の制約を設けて強制帰還させる条項など、国際的に認められた難民の法的権利、人権を制約するものである。

名古屋では殺されたウイシュマさんの賠償請求裁判も始まり、入管での難民に対する反人道的な取り扱いが暴露されつつある。難民の人権を守ろう！

高賛侑監督

「ワタシタチハ ニンゲンダ！」

映画「ワタシタチハニンゲンダ」は、外国人学校に対するヘイトや出入国在留管理局(入管)の実態、技能実習生や難民などに対する外国人差別の問題に迫るドキュメンタリーである。

2021年に名古屋入管に収容中のウイシュマさんが死亡した事件をはじめとする、在日外国人に対する日本の社会的問題を映し出す。

監督は「アイたちの学校」の高賛侑さんである。

反戦・平和を訴え続けたむのたけじさんを記念した「地域・民衆ジャーナリズム賞」の大賞に「ワタシタチハニンゲンダ」が選出された。選考理由として「群を抜いた優れた作品。2時間という長さであるが、事実を網羅的に記録しようとする迫力が伝わる」と。



松岡勲の映画 or 読書案内(3)

「人が働くのはお金のためか」 浜矩子 著

浜矩子著『人が働くのはお金のためか』(青春出版社)を読んだ。浜さんの本を読んでいるといつも「経済学の本でこんなにおもしろい！ものは他にないな」と思う。

グローバル化の進展とともに富の偏在は進み、「21世紀の資本」は凄まじい規模と速度で国境を越え、暴利をむさぼっている。富裕層の不労所得が増大と集中をする一方で、経済格差は広がり、「使い捨て型」雇用は増え、働く人々に貧困が忍び寄っているのを実感している人も多い。

「21世紀の資本」とそれに対峙する「21世紀の労働」の現状を分析し、「21世紀

の労働」とは何かを問う。その問いを歴史的な淵源まで遡り(古代ギリシャ、初代教会から中世そして近代)、さらに浜さんはキリスト教の教理に詳しく、キリスト教と中世修道院の労働観にまで及ぶ。さらに「21世紀の労働」の呪縛から解き放つために、二人の先人の労働観(アダム・スミス、カール・マルクス)を検討する。またアガサ・クリスティが出てきたり、シェークスピア出てきたりと多彩だ。

浜さんの本の魅力は学者が普通やらないアプローチを取るところだ。例を上げる。本の冒頭で人はなぜ働くかについての「文献リスト」を作成し、その文献に関するアマゾンでの「読者のブック・レビュー」を分析する。また「若者向けの就活支援諸サイト」を横断的に分析して、「働く理由」「カネのために働くのか」「働く理由に関する模範解答」をサイト側がどのように提示し、これから働く青年たちを誘導しているかを明らかにする。

最後に浜さんは「21世紀の労働」の問題性について、次のように指摘する。「21世紀の搾取と疎外には、それに固有の不気味さがある。その本質は、端的に言えば「やりがい詐欺」に集約される」(「終章」)

現在の労働者の闘いのあり方を深く掘り下げた本だ。



青春出版社
2023/2/15

日本戦没学生記念会機関誌

「わだつみのこえ」 No157

発行日:2022年12月2日 (1000円+税)

【改憲反対の闘い】

「戦争と日本国憲法

『せめられたら』にどう答えるか」 小林 武

【わだつみ会8・15集会報告】

「遺骨土砂問題」意見書運動と市民運動 西尾慧吾

【平和のための行動】

反戦詩人・四國五郎が伝える戦争の記憶

終戦77年目のふじさわ 不戦のちかい 平和行動

国家の嘘を見破った少女―「子どもたちの靖国」

【わだつみ会連続講座】

(第3回)「日本の平和博物館の歴史と現状」

【書評】「知的障害と認知症」

朴貞花第2歌集「無窮花の園」

【岩井忠正さん追悼】

わだつみ会、遠藤美幸(不戦兵士・市民の会)

【会員メッセージ】

山科三郎 入会メッセージ(今市和昭・松井幸人・徳野明了)



四國 光
飯田玲子
松岡 勲

山辺昌彦
西村武彦
安川寿之輔

「わだつみのこえ」

156号2022/8/10



【改憲反対の闘い】

経済安保、軍事増強、改憲の最新状況」飯島慈明

【わだつみ会連続講座】

(第1回、第2回)

購入ご希望の方は

「海」事務局まで連絡を